



“老若男女、年齢問わず楽しめる”

卓球競技の魅力



上原 亘氏

子どもの頃から卓球を始め、27年に亘り、国立市卓球連盟やスポーツ協会で活動し、平成22年からは連盟の会長を務めさせていただいています。卓球は年齢や性別、体格に限らずどなたでも楽しんで、一人一人がそれぞれの目標を持ってプレーができます。皆さんが卓球を始めるきっかけとなれば幸いです。

卓球をはじめられたきっかけを教えてください。

中学校で小学生の時に仲が良かった友人と卓球部の見学に行き、楽しそうだったので私も入部しました。新入部員が30人近くいたので、当時はなかなか卓球台で練習ができませんでした。

国立市卓球連盟（以下、連盟）に加入されたきっかけを教えてください。

学生の頃から近隣の試合に連れて行っていただいたり、市民大会のお手伝いをさせていただくうちに自然に加入していました。卓球連盟の役員の方をはじめ、地域の卓球愛好家の方々のおかげで卓球の楽しさを知り、沢山の仲間が出来ましたので、自分のできる範囲で恩返しをして、次の世代の方にバトンタッチしたいと考えています。

連盟や国立市スポーツ協会ではどのような活動をされていますか

卓球連盟では、主に年2回の市民大会と毎月1回のジュニア教室の運営を行っています。市民大会は毎回100名を超える選手の方にご参加いただいております。大会の3カ月前から大会要項の作成や発送等の準備に取り掛かります。ジュニア教室は初心者を中心に、卓球の楽しさを伝えられるように心掛けています。未就学児から中学生まで年齢も

レベルも様々な子どもたちが来てくれます。スポーツ協会ではファミリーフェスティバルやウォーキングのお手伝いもしています。

卓球という競技の魅力を教えてください。

年齢や性別、体格が違っても楽しんで、技術的な差があっても一緒に練習してお互いに上達して行けるところが魅力です。オリンピック優勝や全国大会出場を目指すのも良いですが、「市民大会で賞状をもらう」、「ラリーを100本続けるようになる」など、それぞれの目標があってもいいと思います。日本は男女とも世界でトップクラスの実力国なので、超一流のプレーを生で見ることが出来るのも魅力だと思います。

地域における卓球競技の今後についてどのようにお考えですか

国立市には伝統的な卓球強豪校があるため、今後は小中学校や行政と連携して、子どもたちが卓球を始めるとききっかけ作りが出来れば良いと考えています。シニア世代の方々からは、練習場が確保できないとの声をよく伺います。市民体育館や小中学校の体育館は限られていますので、他の競技の方と連絡を取り合い、お互いにとって良い方法が見つければと思います。

最後に一言お願いします。

近年報道等で部活動の地域移行が取り上げられ、今後部活動の在り方も変わってくると思うので、何か方法が無いのか、出来ることは無いのか考えていきたいと思っております。卓球の市民大会（6月と11月）は毎回たくさんの方が参加して、応援や付き添いの方々も体育館に来場されます。同じ日に市役所や谷保第四公園で開催しているイベントとコラボできれば、相乗効果が期待出来て面白いと考えています。



▲卓球の練習に打ち込む上原氏



▲練習前の準備体操の様子